

2020年7月28日(火)

老球の細道554号

## 会津地区バスケットボール U-18 強化練習会雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

高校生の大会は1月の百井杯以来になるのだろうか。強化練習会とはいえ半年ぶりの大会に心が躍った。やはり体育館で行われるバスケットボールの現場は血沸き肉躍る。3日間充実した時間と内容の濃いゲームを観戦させていただき非常に勉強になった。

それにしても、このコロナ禍がまだ収束しない状況下での大会運営は大変な労苦を要していた。特に会場校においては、会場入り口でのチェックシートの点検や検温の実施、それにベンチ、観戦者席への配慮、そして試合が終わるごとの消毒の実施などで、ゲーム以上に多くの神経を使ったことだろう。改めて、大会運営者、審判、選手の皆様に厚く御礼を申し上げます。

長期間、部活動停止で十分な練習ができなかったにもかかわらず、大会は、そんなマイナスの様子も感じさせない好ゲームが多かった。チームによっては3年生のモチベーション云々がゲーム結果に左右しているところもあったが、多くのチームで1年生が戦力として活躍している姿が印象的だった。色々な講習会で関係した中学生がどこの高校に進学して、どのような成長を見せているかを見るのも今大会の楽しみの一つだった。

男女とも全勝となった男子若松商業、女子会津高校は共にトランジションの攻防とディフェンスのプレッシャーで他のチームとは一日の長があったように思われた。勝てないチームの共通点は、何と言ってもディフェンス力にある。特に、プレッシャーをかけない、ミスして戻らないは例外がないくらい顕著である。

これからコロナの第2波、第3波と共にウインターカップ予選に向けて準備をしなければならない。コロナの正しい情報を把握しながら練習のやりくりには相当ストレスになることだろう。しかし、「こんな状況ですから」といつまでもコロナ練習に甘んじていると、1年経つ頃には相当のチーム力の差となってしまう。創意工夫の試練が要求される。

最後に、自らの健康に関わる情報を集めて行動の選択肢をつくり、適切に選び、予防や治療に役立てる能力を「ヘルスリテラシー」と言う。バスケットボールでは「デシジョンメイク」。いわゆる状況判断力である。日本人はこの力が弱い傾向にあると言われている。今後、コロナや感染症の偽情報やフェイントに騙されないためにも5つのポイントを意識したい。キーワードは「か・ち・も・な・い(勝ちもない)」(聖路加国際大学・中山和弘教授)。

\*か・・・書いた人は誰ですか？(信頼できる専門家ですか？)

\*ち・・・違う情報と比べましたか？(他の情報と矛盾はありませんか？)

\*も・・・元ネタは何ですか？(根拠となるデータはありますか？)

\*な・・・何のために書かれていますか？(お金もうけが目的の情報ではないですか？)

\*い・・・いつの情報ですか？(今も変わりありませんか？)